

都市再生整備計画 事後評価シート
霞ヶ浦中心地区

平成24年2月

茨城県かすみがうら市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	茨城県	市町村名	かすみがうら市	地区名	霞ヶ浦中心地区			面積	961.6ha			
交付期間	平成19年度～平成23年度		事後評価実施時期	平成23年度		交付対象事業費	233	国費率	0.4			
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名 ・道路/市道②2583号線、市道②0109号線 ・地域創造支援事業/図書館システム整備事業、花のみち花壇植栽事業									
	当初計画から削除した事業		事業名		削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響				
	新たに追加した事業	基幹事業	-									
		提案事業	-									
	交付期間の変更	当初	-		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響							
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値					
	指標1	大型車の通過台数	台/日	1,358台/12時間	18年度	650台/12時間	23年度	128台/12時間	○	あり	関連事業の市道②2644号線の供用開始により、国道354号の大型車の通過台数が減少している。その結果、歩行者や自転車の安全性の向上が図られた。	
	指標2	沿道花壇の所持区画数	区画	244区画/273区画	18年度	264区画/273区画	23年度	273区画/273区画	○	あり	平成23年度は空き区画数がなくなった。本事業により、住民のふるさと意識と環境美化に対する意識の向上が図られた。引き続き事業を推進していく。	
	指標3	図書館の利用者数	人/年	46,623人/年	17年度	47,000人/年	23年度	44,614人/年	△	あり	平成14年度から減少が続き、平成17年度に合併効果により一時上昇したが、その後も減少傾向にある。しかし、システムを導入したことにより、利用者の利便性の向上が図られ、減少への歯止め効果が発現された。また、地域公共交通システム運行事業により、多世代の図書館利用が可能となった。	平成24年4月
	指標4									あり		
指標5									なし			
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値					
	その他の数値指標1	歩行者・自転車数	人/日	257人/日	H18		301人/日			大型車両の減少により歩行者・自転車の通行が増え、にぎわい効果が創出された。		
	その他の数値指標2	団体貸出登録者数	団体	32団体	H18		50団体			団体貸出制度への登録団体が増えたことにより、住民が来館しなくても図書を利用でき、貸出冊数が増えている。それにより、住民の読書活動が促進され、本に親しむ機会が増えるなど、生涯学習環境が整いつつある。		
その他の数値指標3												
4)定性的な効果発現状況	沿道花壇の植栽ボランティアからは「沿道的美観維持だけの作業ではなく、市民交流の場にもなる」との声も寄せられている。											
5)実施過程の評価	実施内容			実施状況				今後の対応方針等				
	モニタリング	平成22年11月に図書館利用者数調査を踏まえ、目標値を49,000人から47,000人に変更した。		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				引き続きPR等を推進することにより、利用者数の増加を目指す。				
	住民参加プロセス	-		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった								
	持続的なまちづくり体制の構築	-		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった								

様式2-2 地区の概要

霞ヶ浦中心地区(茨城県かすみがうら市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値	
大目標 「にぎわい」と「やすらぎ」の拠点地区整備 目標1 にぎわいと安全の交流拠点地区 目標2 協働により進めるやすらぎの環境づくり 目標3 文化を創造する生涯学習環境の整備	大型車の通過台数	単位: 台/日 1,358台/12時間 H18	650台/12時間 H23	128台/12時間 H23	
	沿道花壇の受持ち区画数	単位: 区画 244区画/273区画 H18	264区画/273区画 H23	273区画/273区画 H23	
	図書館の利用者数	単位: 人/年 46,623人/年 H17	47,000人/年 H23	44,614人/年 H23	
		単位:	H	H	H
		単位:	H	H	H

まちの課題の変化	<p>交通量調査の結果、市道2644号線の供用開始による交通の分離が図られ、国道354号の大型車両の通過台数が減少し、歩行者が安全に通行できるようになった。図書館入館者は、平成17年度以降減少傾向にあったが、複数の図書館の蔵書を管理するシステムを導入したことにより図書利用の利便性が向上し、平成20年度から増加に転じた。しかし平成23年度は、減少傾向にある。沿道花壇の植栽事業については、ボランティアにより植栽・管理していただくことで、沿道の景観が向上したほか、住民の交流を促進した。</p>
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<p>道路の維持管理など、今後の通行車両等の変化などにも対応した道路機能の向上を図る。図書の利用については引き続きPR等を推進するが、その方法等について見直しを図る。また、利用者の増加につながるシステムの導入やイベント等のソフト事業を展開し、生涯学習の機会を増やす。市民のふるさと意識・環境美化の意識向上を図るため、引き続き市民主体の花壇の管理を推進する。また、事業手法や植栽する花の種類などマンネリ化防止策を検討するとともに、市民の主体性、自主性のある事業への発展を目指す。</p>